

令和4年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進		
<p><b>1 一人一人の児童生徒の尊重</b></p> <p>学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>保護者、児童、教職員いずれの項目も「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答が前年度同様90%を超えている。ただし、保護者、児童の中には、できていないとする層もあり、教職員はより一層一人一人を大切にする指導や対応の方法を考え、実施していく必要がある。</p>	<p><b>2 友達への思いやり</b></p> <p>子どもは、友だちとなかよく、助け合っていると思いますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童が97%、教職員が92%であった。保護者からも96%と高い評価を得た。過去3年間を比べても同様な数値が見られる。このことから、友達と仲良くしているという意識が高いことが分かる。今後も同様の結果が得られるように、豊かな心をはぐくむ教育の推進に努めていきたい。</p>	<p><b>3 道徳・心の教育の充実</b></p> <p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)</p> <p>保護者 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した保護者は94%、教職員は98%と高い数値であった。昨年度と比較すると、教職員の数値はわずかに低くなったが、保護者の数値は上がった。今年度は各学年で重点内容項目を決めて授業実践に取り組んでおり、成果と改善点をもとに来年度の計画を立てる予定である。今後も学校と家庭との連携を図り、道徳科の充実した授業実践と道徳教育の取組に力を入れていきたい。</p>

②確かな学力を育む教育の推進		
<p><b>4 意欲的な学習態度</b></p> <p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>保護者、教職員の90%以上が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答だったことに比べると、児童の評価はやや低い結果であった。児童の意欲を高める単元構想や教材の工夫等、効果的な授業づくりをより一層進めていかなければならないと考える。</p>	<p><b>5 授業力向上</b></p> <p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>校内研修で「子供が主役の授業づくり」をテーマに授業実践を重ねてきたことにより、教職員の指導力向上につながっていると考える。ただ、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の回答もあることから、より一層の研修を進めていかなければならない。特に、児童同士の対話を充実させ、児童の考えからめあてにつなげたり、思考を深めたりできるよう教師のコーディネート力を高めていきたい。</p>	<p><b>6 ICT活用</b></p> <p>子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると、保護者で80%以上、児童と教職員で90%以上となり、昨年度より高い評価を得た。オンラインでの授業や学習内容に合わせたアプリの活用ができていると考える。一方で、不適切な使用やインターネット使用量の多い児童がいることから、情報モラル等について保護者と連携をとり指導を継続していく必要がある。</p>

③健やかな体を育む教育の推進	④いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実	
<p><b>7 健康づくり</b></p> <p>子どもは、好き嫌いをなく食事し適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答が、保護者85%、児童79%、教職員は71%であった。昨年度と比較し教職員の回答が7%上昇している。今年度は学校保健委員会を心の健康について年間を通じた計画を立て、職員と共通理解を図りSSTと関連づけながら行ってきたことが職員の評価の向上に繋がった要因の一つと考える。今後、適切な生活習慣などの体の健康についても保健学習等を充実させ、児童が健康な生活を送ることができる力の育成に努めたい。</p>	<p><b>8 児童生徒理解</b></p> <p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていると思いますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答が、保護者92%、児童89%、教職員は100%という結果であった。昨年度と比較して児童の回答が4ポイント上昇している。日常的な関わりに加え、ハートフルタイム等での個別相談が高い評価につながったと考える。2年目になるソーシャルスキル学習も、教師の児童理解や児童の人間関係づくりに効果を上げている。今後も児童が「先生は自分のことをよく分かってくれている」と感じるような実践を重ねていきたい。</p>	<p><b>9 いじめや問題への対応</b></p> <p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>保護者、児童、教職員ともに「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計は88%、94%、100%と高い。しかし、「そう思わない」は、保護者と児童で複数回答があり、これまで以上に迅速丁寧に対応し、保護者に説明していく必要があると考える。保護者や関係機関とも連携を図りながら、児童が安心して通うことのできる学校づくりをめざしていきたい。</p>

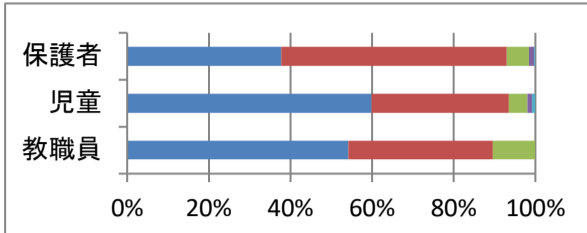
⑤特別支援教育の推進	
<p><b>10 学校の支援体制</b></p> <p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p> <p>保護者 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した保護者が90%、教職員が100%と高い。個別の教育相談や保護者からの相談を受けて丁寧に対応した結果であると考えられる。また、教職員においては、校内支援委員会における取組を通して、共通理解、共通実践ができ、教職員全員がチームとして一丸となって取り組んだ結果であると考えられる。</p>	<p><b>11 共生社会を担う人材の育成</b></p> <p>「交流及び共同学習」等の実施は、相互理解の促進につながっていると思いますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した保護者が90%、児童が93%、教職員96%と高い。昨年も同様な数値が見られる。今後も交流及び共同学習の取組が、特別支援学級に在籍する児童にとっては、集団生活の経験を広げ社会性を育むこと、通常の学級に在籍する児童にとっては、互いを理解することにつながっていくように取り組んでいくことが必要である。</p>

### ①子どもたちの身近な安全対策の充実

### ②最適な学習環境の整備

#### 12 安全と事故防止

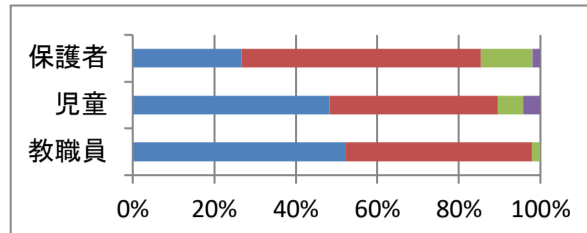
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。



保護者、児童、教職員ともに「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計は93%、94%、89%と高い。一方で、「どちらかといえばそう思わない」と答えた職員が10%と保護者、児童と比べると微増している。会議等で課題を出し合い、検討して、職員全体で危機管理能力を高め合いながら安全教育に取り組む必要がある。

#### 13 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

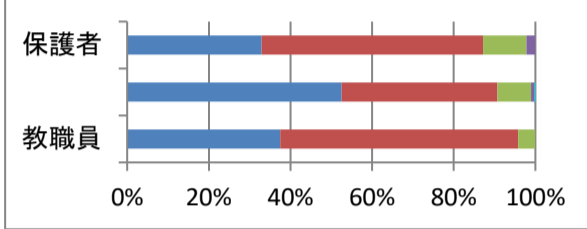


保護者、児童、教職員ともに「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計は85%、90%、98%と高く、3者ともに昨年度より高くなっている。これは、教職員による細やかな安全点検と迅速な修繕が行われている結果と考える。一方で、そうは思わない方もいるという結果も出ており、引き続き安全点検の徹底と適切で迅速な修繕等を行っていききたい。

### ③家庭・地域社会との連携強化

#### 14 教育方針・目標の理解

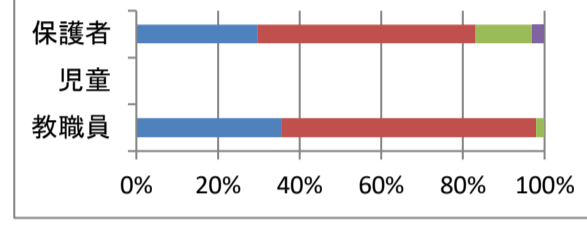
学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者、地域にわかりやすく示していると思いますか。



「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した保護者87%、児童91%、教職員96%といずれも高い評価であった。保護者については昨年よりも肯定的な評価が3%増えている。これは、周知が徹底されたことと捉えることができる。しかしながら、十分な理解が得られていない家庭もあり、今後も周知徹底を図っていく必要がある。

#### 15 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

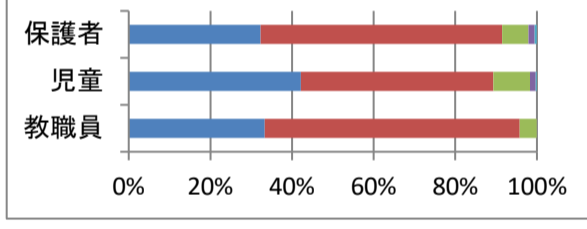


「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した保護者83%、教職員98%で昨年と同じ結果であった。これは日頃から連携を心がけて取り組んでいることが評価されたことと捉えている。しかしながら保護者の17%は「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答しており、保護者の気持ちに寄り添った丁寧な対応を行うことで連携を密にしていきたい。

### 本校の教育

#### 16 1進んで学び合う子供

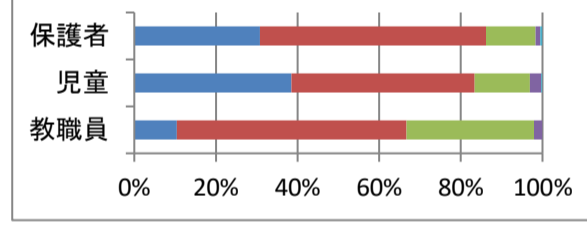
学校は、よく考え、友達と意見を交流したり教え合ったりして進んで学び合う教育に取り組んでいると思いますか。



「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が、保護者91%、児童89%、教職員96%と、ともに高い評価であった。ペアやグループ学習等、授業や委員会活動等の中で子どもたち同士の対話を大切に活動に取り組んでいる成果であると考えられる。また、学校全体で取り組んでいるSSTを昨年度から継続していることも、互いの思いを交流したり認め合ったりすることに効果的であり、今後も続けていきたい。

#### 17 2笑顔であいさつする子供

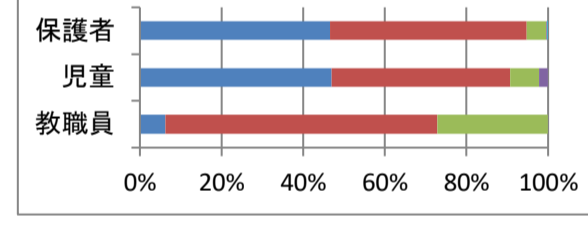
子どもは、笑顔であいさつができていますか。



「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が、保護者86%、児童83%、教職員67%であった。昨年度と比べて、保護者は2%増、児童は8%増、教職員は11%減となった。校内で明るい挨拶がより交わされるために、月ごとの生活目標や期間限定の挨拶運動だけでなく、日常的に挨拶をする意識付けが大切であると考えられる。

#### 18 3きまりを守る子ども

子どもは、学校のきまりを守って生活できていると思いますか。



「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した保護者、児童は95%、91%といずれも高い数値であった。一方で、教職員は73%と保護者、児童と比べると低い数値であった。どれも昨年とあまり変動がなかった。「帯っ子のくらし」の周知徹底など、きまりの内容について定期的に児童に確認したり、守れているかを振り返ったりして、保護者にも状況を伝えていくことが必要である。

### 来年度の具体的な取り組みについて

- 豊かな心をはぐくむ推進については、来年度も継続して道徳教育、人権教育、情報モラル教育の充実を図る。ファミリー道徳デーを継続することで、家庭と連携しながら豊かな心の育成を推進していく。また、道徳科の公開授業にも取り組みたい。一人一人の児童を尊重するために、きずなアンケートの結果や日頃の児童とのコミュニケーションから、困り感や悩みを発見・解決し、児童のよさを認め伸ばすことで自尊感情を高めていく。
- 確かな学力を育むために、学校経営テーマ「愛（あい）のある子供が主役の学校づくり」にも示しているように、児童の主体性を大切に授業づくりを進める。また、すべての児童が「分かった」「できた」を実感するために、対話をもとにした学び合いの中から、確かな学力の育成を図る。
- 安全教育、事故防止については、児童に安全に関するルール順守の指導を徹底し、避難訓練等を通して「自分の身は自分で守る」という主体性のある安全教育を行っていく。また、未然に事故を防ぐという観点から、毎月の安全点検をより慎重に行い、改善すべき点については迅速に対応していく。
- 健やかな体を育む教育の推進に関しては、体育の授業を中心に運動の楽しさを味わわせることで、生涯を通じて運動に親しむことができる素地を養う。食育や健康の保持増進について、継続的に保護者や地域に発信することで共通理解を図りながら連携して取り組んでいく。
- いじめ、不登校の課題については、生徒指導部会、校内支援委員会、いじめ防止等対策委員会を中心に迅速で丁寧な対応を組織的に行う。特別支援教育についても校内支援委員会を中心に、個に応じた支援を検討し対応する。また、保護者説明会、学級懇談会等とおして家庭や地域へ積極的に啓発していく。
- 学校教育方針については、学級・学校だより、諸団体会合などあらゆる機会をとらえて情報発信を行う。地域との連携のために帯山小安心メールを活用し、学校だよりの周知や授業参観への呼びかけを行い、開かれた学校づくりに努める。また、緑のボランティア、登下校の見守りなど、さまざまな活動に対して今後も「学校支援ボランティア」を募集し連携を推進していく。
- 「笑顔であいさつできる子供」は、本校の目指す児童像の一つである。あいさつについては個人差や時期によっても違いがあるので、特別活動を中心に意義付けや振り返りを継続的に行っていく。

### 学校関係者評価

- 学校評価の大半の項目で、保護者、児童、教職員のいずれも高い評価であることから、本校が健全で円滑な運営を行っていることが理解できる。
- 音楽発表会等の行事では、児童の団結力と表現力が素晴らしかった。校則見直し委員会でも児童は自分の意見をしっかりと発言することができていた。
- 児童・保護者のプラス評価が増えたことは、校長が目指している教育目標に向かって、全職員が共通理解しながら共通実践を行い、充実した教育活動が行われている結果でもある。
- ②「友達への思いやり」⑫「安全と事故防止」は特に高く評価されている。今後も、安全・安心な学校で自尊感情を高め、自分を大切にするとともに他の人も大切に育ててほしい。
- ⑨「いじめや問題への対応」は、学校でとても丁寧に対応している。
- 授業では、児童が理解しやすいように丁寧に説明したり確認したりしていることは評価できる。

- △①「一人一人の児童生徒の尊重」⑨「いじめや問題への対応」で、保護者・児童に「そう思わない」とする層がある。今後も継続して対応や指導をお願いしたい。
- △児童のあいさつに元気がない時がある。地域も含めて大人がお手本となるようにしていく必要がある。
- △⑦「健康づくり」⑮「家庭や地域との連携協力」⑰「笑顔であいさつする子ども」の評価が、比較的低いようである。改善のために取組を検討し実践してほしい。健康づくり推進のために、体育科授業の充実、外遊びの奨励、業間体育の設定、学校保健委員会や食育の充実などに取り組むとよい。